

ドクターヘリ4月独自運航へ

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

4月に始まる「ドクターヘリ」の独自運航に向け、実施主体となる県立中央病院救命救急センターで準備が進んでいる。出勤要請を受けてから3分以内に飛び立つことを目標に設定し、担当医師や看護師らが研修を積んでいる。

ドクターヘリは、医師が乗り込んで患者を迎えに行き、現場や機上で治療しながら病院に搬送する。早期に治療を開始することで、救命率の向上や後遺症の軽減などが期待できる。

2月現在、全国でドクターヘリを配備しているのは27道府県で計32機。山梨県内ではこれまで、神奈川県に依頼して郡内地域と甲府市の一部を対象にヘリの共同運航をしてきたが、山梨独自のヘリ導

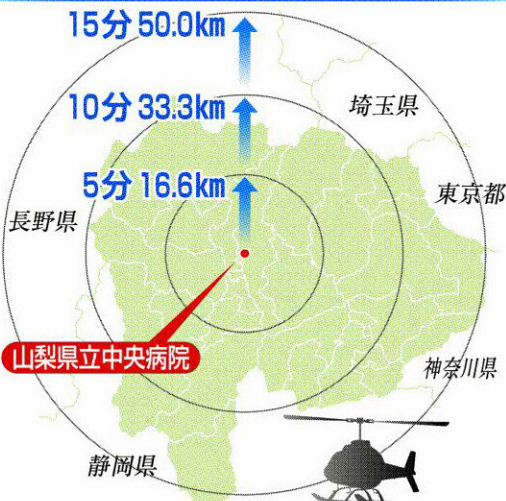


岩瀬 史明
救命救急センター
主任医長

《 14 》

全県カバー、救命率向上へ

山梨県ドクターヘリの運航範囲と到達時間



入により、県全域が運航地域となる。年間200件程度の出勤を想定している。

山間部では、同病院への搬送時間が救急車で30分以上かかっている所も多いが、交通状況に左右されないドクターヘリでは15分程度に短縮することができるという。

運航時間は午前8時半から日没まで。この間、ヘリは同病院屋上ヘリポートに待機し、県内の各消防本部からの要請があれば、天候などを考慮した上で出勤する。離着陸場は学校のグラウンドなど3

37カ所を確保。今後も順次増やしていく。現地の救急隊が救急車で指示された離着陸場まで患者を搬送する。

機内には、人工呼吸器や除細動器などを搭載。搭乗者は患者1人、専門の研修を受けた医師と看護師、操縦士、整備士の各1人を基本に、患者の状態などにより医師が看護師などを1人増やす場合もある。

同病院救命救急センターの岩瀬史明主任医長は「3次救急病院に搬送されるような生命に関わる重篤な状態であっても、搬送時間がかかるなどの地理的な問題で近くの2次救急病院に搬送せざるを得ないケースもあった。ヘリの運航

で早期に医師が駆け付け、治療が開始でき、搬送時間も短縮できるため、救える命が増えるのではないかと話している。(第2、第4金曜日に掲載します。次回は3月9日です)